

研究の成果と課題

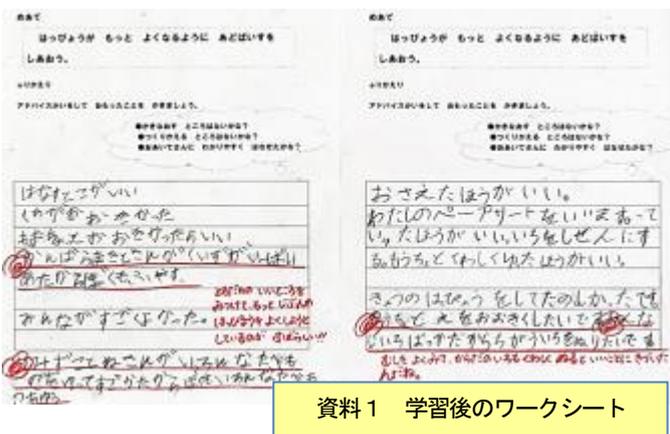
(1) 研究の成果

① 単元構成の見直し、新カリキュラムの作成とその実践を行ったことで、子どもたち一人一人の探究的な学習への意欲が持続し、達成感を味わう中で、大蔵のまちのよさや魅力を実感させることができた。

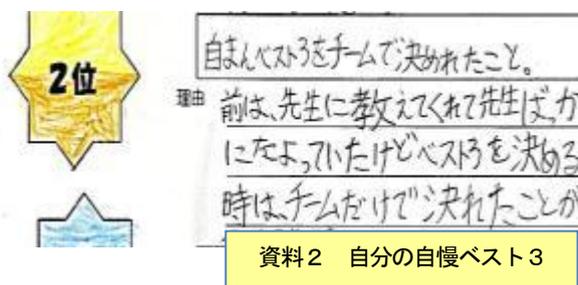
これまでの大蔵プラン（学校カリキュラム）による総合的な学習の時間の1単元70時間の構成を、見直しの視点と方向を明確にして、新大蔵プラン（新学校カリキュラム）として再編成後、実践に取り組んだ。その結果、総合的な学習の時間に対して、94.5%の児童が「進んで学習に取り組めた」と答えている。このことから、単元構成を見直し1単元をコンパクト化したことは、学習意欲の持続化と探究的な学習の充実を図る上での効果的な手立てとなったと考える。

さらに、単元構成の見直しの結果、探究活動を協同して行う学習体験も焦点化され、その積み重ねを通して大蔵のまちのよさや魅力を実感させることにつながった。そのことは、「大蔵のまちや人は好きになった。」(96.9%)、「大蔵のまちをこれからも大切にしていきたい。」(98.4%)というアンケートの結果からも、児童の地域に対する愛情と誇りを一層深めたと考えることができる。

1年生は、「たのしさいっぱい あきいっぱい」で、季節に合わせて活動を行うことができた。そのため、小単元「あきみつけをしよう」から小単元「つくってあそぼう」まで、取り組む期間が短縮され、児童の意識を持続することができた。アンケートでも、「生活科のお勉強は楽しい。」と95%の児童が答え、楽しく学習に取り組めたことを実感している。また、児童の意欲の持続や高まりにつながる様々な形態での伝え合い活動の充実を図るために、2年生との交流学習での経験を基に、「わたしたちも、生き物を飼ってみたい。」「2年生にしてもらったように、保育園のお相手さんに教えてあげたい。」という思いを膨らませながら、活動の方向付けをしたり、学習の見通しをもたせたりすることができた。その結果、「保育園のお相手さんに分かりやすいように」という思いをもち続けて活動に取り組むことができた。(資料1)



3年生では、総合的な学習の入門期である3年生という実態から、課題解決のために情報の収集を行った後に、大蔵の自慢という視点で整理・分析させ、まとめる活動を時間をかけて丁寧に行った。その結果、児童の学習後の「自分の自慢ベスト3」の中のその理由からも分かるように(資料2)、児童が自分たちの手で3つの自慢を見付けることができたという達成感をもつことができた。



また、課題別のグループで大蔵の自慢と思った理由を出し、全体で自慢と位置付ける理由を話し合い、大蔵の自慢の価値付けを行った。その結果、「総合的な学習の時間の学習で大蔵のまちが好きになった。」と96%の児童が答え、大蔵のまちに対する思いを深めていったと考える。また、地域の方からこれまでの発表やキャッチフレーズ作りへの賞賛と、この自慢を知らない大蔵のまちの人にも伝えてほしいと

いうお話をしていただいた。このことで、まちの自慢を、伝えたいという児童の意欲を一層高めさせることができた。(資料3)

Y児	S児	T児
<p>ぼくは、見守り隊に元気に挨拶をしたいと思います。わけは、見守り隊の人たちは、暑い日も寒い日も僕たちを見守ってくれるから挨拶をがんばりたいです。</p>	<p>自慢を知らせたいです。大蔵のまちは、やる気や自然や優しさがあるから、この大蔵のまちの自慢をまちの人や他のまちの人にも知らせたいです。</p>	<p>ごみを捨てないようにしたいです。ごみを川に捨てたら、川にいる絶滅危惧種のオヤニラミが棲めなくなってしまうから、ごみを拾ってきれいな大蔵にしたいです。</p>
	<p>資料3 学習後の感想</p>	

5年生では、学習後の感想(資料4)の①②③④にあるように、大蔵川の具体的な内容についての学びを深めたり、学び方に関する意見を記述したりする児童が多くいた。さらに、⑤⑥⑦のような意見を書く児童もいた。また、アンケートでは、「総合的な学習の時間の学習で大蔵のまちや人は好きになりましたか」という問いに「とても好きになった」「好きになった」と答えた児童が88.5%、「大蔵のまちをこれからも大切にしていきたいですか」という問いに「とても大切にしていきたい」「大切にしていきたい」と答えた児童が97.1%という結果であった。感想やアンケート結果から、児童は総合的な学習の時間の学びを通して、その内容や学び方だけでなく、大蔵という地域に対する愛情や愛着をより一層深めることができたと考える。

- ① 大蔵川には、浅い歴史も深い歴史もたくさんあって、とても昔からあるまちだということが分かった。
- ② ぼくは、川の速さや断面積のことに学んだ。
- ③ 大蔵川の行事は、大蔵の自然のためにしているのだなと思った。
- ④ 大蔵川にはいろいろな魚がいて、その魚は隠れる場所のあるところにいる。
- ⑤ 僕は、大蔵川に関わる人について調べて、人には、様々な大蔵川に対しての思いがあるということが分かった。
- ⑥ 大蔵川ではたくさんの植物を発見できること、それらをたくさんの人が大切にしているということが分かった。
- ⑦ 大蔵のまちには優しい人がいて、自然がたくさんあることが分かった。

資料4 学習後の感想(5年)

② 探究的な学習を一層充実させるための指導方法を検討し、実践したことで、児童の情報活用能力やコミュニケーション能力が高まり、その結果、大蔵のまちの魅力やよさに対する多様な見方や考え方を広げ、深めることができた。

学年の発達段階に応じて、情報活用能力(情報の収集・整理分析等)やコミュニケーション能力を高める指導を意図的・継続的に行ったことで、探究的・協同的な学びを深めることができた。

生活科の1年生では、2年生から教えてもらったという経験を基に、自分自身でどの方法でお相手に伝えるかを考えることができた。ペープサートや紙芝居、絵本、ポスター、新聞、クイズなど様々な形態での伝え合い活動を行ったことにより、多様な表現方法を学ぶことができた。そして、このことは「4月と比べてできることが増えた。」とほとんどの児童(95%)が自分の成長を実感することにつながった。

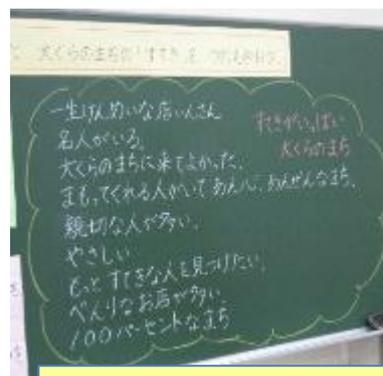
2年生では、まち探検で見つけた大蔵のまちの「すてき」を様々な方法で表し、「伝え合う」活動を通して、大蔵のまちの人たちが自分たちの生活に関わっていることに気付かせるようにした。その結果、「いろいろなことを見付けたり、気付いたりできた。」と多くの児童（91.8%）が伝え合う活動で身近な環境や自分についての気づきを広げた。そして、「自分が気付いた大蔵のまちや人のすてきが増えた。」とたくさんの児童（94.5%）が大蔵のまちのよさや魅力の実感を広げることにつながった。また、グループごとにお互いの発表を聞いたことで、知らなかった場所や人の『すてき』が分かり、まだ行ったことのない場所や人への興味・関心をもった児童がいた。「〇〇さんと△△さんの発表を聞いて、□□に行きたくなりました。」等、自分が住む大蔵のまちを再認識する気づきが見られた。（資料5）このように個人の「すてき」をみんなで共有したことへの喜びや満足感を感じ取ることができた。

総合的な学習の時間では、「学習を通して、調べたいことの情報を集めたり、調べたことを整理したり、まとめたりすることができた。」と100%の児童が答え、情報活用能力が高まったことを実感している。具体的には、「総合的な学習を通して学んだこと」として、「調べたことを整理するのが上手になった。」等（資料26）を挙げている。また、コミュニケーション能力についても、「友達の意見や考えを聞いたり、自分の考えを伝えたり、話し合ったりすることができた。」と93.9%の児童が答え、具体的には「友だちの意見を聞いて、自分の考えを伝えたりしたこと。」等（資料6）を挙げている。

3年生では、課題別グループでの調べ活動の際に、課題解決のために見学やインタビューなどの中から適切な方法を選んで調べたり、必要な情報を整理・分析したりした。調べたことを基に、そのよさや特色について理由を考え発表した。その結果、情報の収集・整理・分析等の活用が「たくさんできた」（44%）、コミュニケーションが「たくさんできた」（36%）と多くの児童が、それぞれの能力の大きな高まりを実感できた。

5年生では、発表する相手や目的を意識して伝え、「大蔵川のよさ」を比較・関連・統合させながら学習を進めていった。その際、「企画・計画会議」や中間発表を位置付けたり、アドバイザーとして外部の方の意見を聞いたりして、コミュニケーションを軸にした思考を重点とした。その結果、コミュニケーションが「(たくさん) できた」（71.4%）とたくさんの児童がその高まりを実感できた。

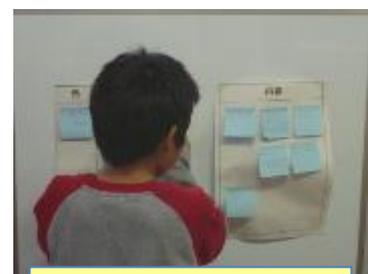
6年生では、情報の整理・分析の過程で付箋を活用し（資料7）、操作をしながら新聞作りをした。そして、授業では、具体的な目標「トップ記事の見出し」を設定した結果、視点を明確にしてグループでの話し合いができた。これらの一連の手立てによって、情報の整理・分析においては可視化することで話



資料5 児童の気づき

- ・発表を大きな声で言ったら友達に届きやすいから、大蔵川のことや大蔵の人のことを知らせました。
- ・インタビューの仕方のおかげで、上手になった。
- ・調べたことを整理するのが上手になった。
- ・話し合いをすることの大切さが分かった。
- ・新聞を使って調べたことを分かりやすくまとめる方法を学んだ。
- ・人の話を簡単にまとめることが必要だということが分かった。
- ・友だちの意見をしっかり聞いて、自分の考えを伝えなければならない。
- ・新聞など、いろいろな方法でまとめることが大切だなと思った。

資料6 総合的な学習を通して学んだこと



資料7 付箋紙の活用

合いが焦点化され、思考の活性化を図ることができた。(資料8)
そのことは、情報の収集・整理・分析等の活用が「(たくさん) できた」(71.9%)と多くの児童が実感することにつながった。

総合的な学習の時間では、「友だちといっしょに学習したりして、自分の考えは広がったか」という問いに対して、82.8%の児童が「(とても) 広がった」と答えている。これらのことから、情報活用能力やコミュニケーション能力を高める指導を通しての探究的・協同的な学びが自分の考えを広げ、多様な見方・考え方につながることを実感させることができることが分かった。



資料8 可視化による思考の活性化

③ 教科で習得した知識・理解、技能等を探究のプロセスの中で活用し、相互に関連付け生かすことができる展開を工夫したことで、活用できる学力を身に付けることができた。

確かな学力の向上に向け、教科で習得した知識・理解、技能等を探究のプロセスの中で活用し、相互に関連付け生かすことができる指導計画を作成し、意識付けを行いながら取組を進めた。その結果、「他教科の学習を活用できた・他教科で生活科や総合的な学習の時間の学習が活用できた」と答えた児童が生活科では、83.2%、総合的な学習の時間では88.9%にもなった。

生活科では、半数以上の児童が活用できたこととして「話を聞く」(52.2%)、「発表する」(53.3%)を挙げている。コミュニケーションに関わる中での活用が多く、国語科との関連付けの成果が見られた。

1年生では、生活科の学習後、国語科「しらせたいな見せたいな」の学習を行った。生活科の学習で学んだことを生かして国語科での題材に必要な事柄を整理してそれぞれの児童が選んだ生き物の特徴をたくさんメモに書くことができた。(資料9)
学習の際に生き物と自分の気持ちの距離を縮めて、世話をしたり、生き物に対する思いを表現したりすることができるようになったため、国語科の学習ではさらに表現の幅を広げ、題材について詳しく書くことができた。



資料9 国語科でのメモ

総合的な学習の時間でも、半数以上の児童が活用できたこととして「活動の計画を立てる」(55.1%)、「発表する」(54.3%)、「話し合いをする」(51.2%)を挙げている。探究のプロセスの「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」各過程で、国語科を中心とした活用を図ることができた。

3年生では、国語科との関連を図り、話し合い活動やインタビュー活動を位置付けたことで、児童は話し合いの方法やインタビューの仕方を一層身に付け、自分たちが調べたいことを話し合ったり、インタビューしたり、まとめたりする活動を適切に行うことができた。アンケートの結果も80%の児童が教科の学習を総合的な時間の学習に思い出して使うことができた。また、96%の児童が大蔵のまちや人を調べたり友達と一緒に学習したりして自分の考えが広がったと答えた。このことから、児童は教科と関連させることによさや共同して学ぶよさを感じることができた。と考える。

6年生では、社会科での「歴史新聞作り」や国語科との関連を生かして、調べたことをまとめる際に「壁新聞」にまとめることで、記事にするためのまとめ方や書き方、表現方法を変えることでの読み手

への伝わり方の違い等を学ぶことができた。学習後のアンケートの結果でも、88%の児童が「教科で学習したことが総合的な学習の時間の中で生かされた。」と回答している。また、「調べた情報を集めたり整理したりすることができた。」と96%の児童が答え、教科との関連によって学習がより一層確かなものになることを感じ取ることができた。

(2) 今後の課題

① 単元構成の見直し、新カリキュラムの作成とその試行的実践について

生活科では、単元構成の見直しにより一定の成果が見られた。1年生では、年間の単元配列を変更したことで、季節に合わせた取組がしやすくなった。2年生では、1学期は季節やまちの変化や様子(建物・景色・生き物など)を中心にし、2学期は、そこに住んだり働いたりしている人へ目を向け、まとめの段階で集大成として発表した。そのため、時間の削減が可能となり、発表のマンネリ化が押さえられ集中して準備や発表ができた。

本年度は、教科との関連を重視し、国語科や図画工作科、道徳等他教科等との関連を明確にした指導計画を作成し実践した。昨年度よりは随分と成果が見られたが、まだ十分とは言えない。次年度はより一層指導計画を綿密に組むこと、他教科等との関連をより図ること、そして何より指導計画や学習内容そのものをさらに見直す必要がある。

総合的な学習の時間では、大幅な単元構成の見直しを行い、新大蔵プラン(新学校カリキュラム)を編成した。新たなる単元構成を図ったので、立ち上がりに時間がかかり、情報活用能力やコミュニケーション能力を高める指導の工夫や考えを深めさせる学び合いの場や学習成果を生かし合う場の位置付けが十分とは言えなかった。アンケートによると、児童が高い達成感を感じたと答えたものは、「学習を通して、調べたいことの情報を集めたり、調べたことを整理したり、まとめたりすることがたくさんできた」(29.1%)、「友達の意見や考えを聞いたり、自分の考えを伝えたり、話し合ったりすることがたくさんできた」(24.4%)、「学習を通して、自分の考えがとても広がった」(29.5%)という結果である。来年度は前出の課題を受け、情報を整理したり思考を深めたりするために適切な場の設定や指導の工夫をしていく。そして、どの場面でもどのように児童が力を付け達成感を得るかを意図した具体的な内容の指導計画の編成を進めていく必要がある。

② 探究的な学習を一層充実させるための指導方法の検討とその実践について

生活科では、「伝え合う活動」をより充実させていくことが必要である。

1年生は、交流相手の杉の実保育園のお相手さんが年間を通して固定されているので、単元が変わっても無理なく交流することができた。回数を重ねるごとに児童と園児に親密さが増してきた。伝え合う活動でも、相手を意識し様々な表現方法を考えてきた。しかし、保育園のお相手さんを意識すると、文字は使えず、絵や言葉での表現になる。1年生としての表現方法の多様化や内容の質を高める学習と相反することになり、単元で軽重をつけるなど工夫が必要と思われる。

2年生では、今年度は探検後の「伝え合い」の発表をまとめの1回のみにした。これにより昨年度の課題として挙げた「すてき伝え合い発表会」の「マンネリ化」は押さえられたと全体の様子から感じている。しかし、1回の探検ごとに思いを膨らませ、その表現の場としての発表を複数回行う展開と比較し、どちらが一層発表内容の充実につながるか検討していく必要がある。

総合的な学習の時間では、探究活動の各プロセスでの視点と子ども像を明確にして活動に取り組むことが必要である。「大蔵のまちのよさや地域の思い」を実感するために、「情報の収集」の過程では、フ

ィールドワークやインタビュー，ゲストティーチャーを招いての交流等様々な場面を設定してきた。それぞれの場面での重点的な視点を設定し活動しているが，抽象的であったり，目的とずれていたりして，次の「整理・分析」の過程の視点につながらず，ねらいとした方向で情報の整理できない面もあった。また，「まとめ・表現」の過程では，前学年までのまとめ方や表現方法からの系統的な発展に到っていないことも見られた。このようなことから，「育てたい資質・能力」を基に，場面，学年の段階，目的，対象等に応じてねらいとする子ども像を具体的な児童の姿として設定し，情報活用能力（やコミュニケーション能力が学年が進むごとに高まっていくような取組を進めていくことが必要である。

③ 他教科等との関連を重視した指導計画の作成について

生活科・総合的な学習の時間ともに指導計画の中で教科との関連付けを行い，新カリキュラムの実践に取り組んだ。生活科では「まとめ・発表」，総合的な学習の時間では「整理・分析」「まとめ・表現」の各過程で，国語科を中心に教科等の活用を意識付けた。児童のアンケート結果からも「話す・聞く」「話し合う」際に活用できたという実感が強い。しかし，国語科との関連付けは少しずつ明確になってきてはいるが，他教科等との関連付けはまだ少ない。また，生活科で学習した関わりや気づき，総合的な学習の時間での情報の収集や表現が，他の教科等で意識付けられたり，活用されたりすることはまだ十分に行われていない。

本年度の各学年が実践したことを基に，来年度は，計画段階でより具体的な関連付けを行う必要がある。そのためには，本年度の指導計画を分析し，作成段階で，「どの教科のどの単元で学習したことが，生活科や総合的な学習の時間のどの場面で活用されるのか。」「生活科や総合的な学習の時間で学習したことが，どの教科のどの単元でどのように活用できるのか。」を見通して，より具体的な指導計画へと改善していく必要がある。

特に，国語科や算数科との関連については，4月に実施した「全国学力・学習状況調査」や1月に実施するC R T学力検査の結果も加味し，本校の児童の学力の課題の解決につながるような工夫をしていかなければならない。

「単元構成を見直し，新カリキュラムの作成とその試行的実践を行うこと」「探究的な学習を一層充実させるための指導方法を検討し，実践すること」「他教科等との関連を重視した指導計画を作成し，確かな学力を身に付けさせること」の3つの手立てを柱にした取組を行った。来年度は今年度の実践をより一層深化させ，情報活用能力やコミュニケーション能力を高める工夫と他教科との関連付けの具体化を視点を，新大蔵プランの見直しと修正を行いながら，新たな研究構想に基づいた第3期2年次の実践を進めていきたい。

《参考文献》

- ・ 文部科学省『小学校学習指導要領解説（総合的な学習の時間編）』日本文教出版株式会社 平成20年
- ・ 田村 学 著 『いのちを育てる総合学習 全6巻』童心社 平成20年
- ・ 田村 学 嶋野道弘 著 『これからの生活・総合』東洋館出版社 平成21年
- ・ 無藤 隆 著 『小学校教育課程講座』ぎょうせい 平成20年
- ・ 福岡教育大学研究開発プロジェクト 著 『国語・社会・算数・理科・生活・総合・外国語活動における言語活動の充実』 国立大学法人福岡教育大学 平成25年